



TITLE:

カール、ビュツヒヤー

AUTHOR(S):

神戸, 正雄

---

CITATION:

神戸, 正雄. カール、ビュツヒヤー. 経済論叢 1920, 10(5): 722-724

ISSUE DATE:

1920-05-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127652>

RIGHT:

# 會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號五第 卷十第

行發日一月五年九正大

## 論 說

財産税と租税給付能力……………法學博士 神戸 正雄

Jan de Witt に就きて(一)……………法學博士 財部 靜治

鎌倉時代の家族制度(四)……………文學博士 三浦 周行

## 時事問題

米國の日本移民問題……………法學博士 戸田 海市

加州土地問題に就て……………法學博士 神戸 正雄

## 雜 錄

船舶能力の發達……………法學士 小島昌太郎

株式の分布と課税……………法學士 汐見 三郎

手形交換所制度論(三、完)……………法學士 大森 研造

好景氣の反動と物價……………法學博士 神戸 正雄

## カール・ビュツヒヤー

神戸 正雄

最近に獨逸ライプツヒの老舗フオツク書店から我大學に向けてビュツヒアー教授の全藏書の賣物があるが買はないかとの電報が來た。買ひたきことは山々であるが、其値が英貨四千磅であるので、到底我大學の乏しき力及ばずとして買ひ得ないで居る。さる篇志の人が東西の富豪に説いて寄附を勧誘して呉れたが、未だに物にならない。私は斯かる有力なる學者の藏書が日本の手に落つることは、我邦の學問の進歩の爲めに最望ましきことと思ふ。敢て我京都大學にとは曰はない。我邦の何人かの手へ又何處かへ來ることを望むものであるので、茲に聊かど

ユツヒアーの學問上の地位を紹介して篤志の仁の參考に供しやうと思ふ。邦貨に換算して約四萬圓といへば大した金高のやうでもあるが、近頃の骨董品の値段からいへば一の小さな香爐にも及ばない。そして香爐なれば單純なる好奇心趣味慾を充たすに止まるが、大家の圖書なれば文化の向上を進めて世人を益することは計り知るべからざるものがある。

ビユツヒアーについてはまだ死んだといふことを聞かない。が併し其藏書全部の賣物の出た處を見ると死んだのかも知れない。或はまだ死にはせぬが、大學から退隱したのかも知れない近頃は獨逸よりの雜誌等が來たり來なかつたりで、連續的の情報を得ることが出來ぬから、しかとしたことは分り兼ねる。

彼は一八四七年十一月十六日にウィースバーデンに生まれ、一八六六―六九年の間、ボン、グツチンゲンに歴史、哲學及國家學を學び、其後七年間中等教員を勤め、一八七八年に獨逸の最大の新聞たるフランクフルターツアイツング

の經濟及社會記者となり、以て一八八八〇年に至つた。一八八一年の二月ミュンヘン大學の國家經濟學部の員外教授となり、一八八二年の夏ドルバート大學の統計學正教授となり、一八八三年秋にバーゼル大學の經濟及財政學教授となつて一八九〇年に及び、其れよりカルルスルーへの工科大學の經濟學教授に轉じ、一八九二年春、迎へられてライプツヒ大學の經濟學教授となり、其の國家學研究室主任となり以て今日に及んだ。

彼の著書は頗る多く、論文亦限なく多い、一舉ぐるは煩に堪えない。が彼の著書の中にて最多く人に知られたのは、國民經濟成立史論（一八九三年版）で、此一編は決して形に於て大きなものではないが、併し内容に於ては全く偉大なものであつて、彼は之に依つて永久に不死たることを得る。彼は又ライプツヒ大學といふ獨逸有數の大學に據つて、ベルリンのワグナー、シュモラー、ミュンヘンのブレンターノ等と相並んで、獨逸有數の經濟學者として人々の

崇敬の目標となつて居た。彼は別に國家學雜誌の主幹を爲し、此も彼の勢力の一であつた。そして彼の専門は經濟史經濟原論に傾くが、併し彼は可なり廣い智識の所有者であつて、統計、財政、殖民、工業、社會問題の方面にも貢獻した所が少くない。

そして彼をして不朽の名を成さしめたる國民經濟成立史の要點を紹介すると、彼は之に於て從來の經濟發達の段階説が、何れも經濟發達の全般に着眼せず、例之リストの狩獵時代、牧畜時代、農業時代、農工時代、農工商時代説、ヒルデブランドの自然經濟、貨幣經濟、信用經濟時代説の如きは、生産又は交通の方法の變化のみを見たものであるとして、之を偏狹と爲し、改めて閉鎖家内經濟、都市經濟、國民經濟の三段階説を立てたのである。或は彼よりも前に此事に氣付きたるものありといふ説もあるが、兎も角此説を明確にし、完全のものとした功勞は彼に歸すべきである。そして彼に於て特に注意すべきことは、彼が此説を立て及び其他の研究を爲すにつきて用ゐたる態度である。即ち彼は決

して正統經濟學者の如く抽象的の理論に耽るものでなく、併しながら歴史派經濟學者の如く、具體的の事實の蒐集排列にのみ耽るのでもない。彼は多少歴史派の人々と均しく歴史的材料を蒐集し整理することをも努めたけれども、之と同時に其材料を機械的に客觀的に扱ふのではなく其に心理的哲學的の批評を加えて扱ふたのである。彼は即ち歴史派の死せる材料をもつと活かして正統派の方法を以て取扱ひ、單に發達の順序を擧ぐるのではなくて、之に存する本質、法則を探索せんとするものである。特に彼は古き時代の事實を批判するの今日又は現代人の心理にて之を爲さず、むしろ古代の事實は古代人の心持、考方等を汲取つて説明しやうと努めた點である。此が彼の他の人々と異つた點であつて此の研究方法に於て彼の強味があり、此點に於て後學の士の學ぶべきものは多い。私は彼の段階説其ものよりも、彼の此歴史材料の取扱方の方が一層彼を重からしむるものかと思ふ。彼は確かに學界の一大きな魂である。我等は此魂が欲しい。魂の種が欲しい。が不幸にして經濟學者金に縁が薄く、之を買取るべき金の持合せがない。